

「バス停」

私のかかわりのあるご利用者は、晴れの日にはバス停に歩行器を押して行っている。別にバスに乗ってどこかに出かける用事はないそうだ。毎日バス停のベンチに座って近所の知り合いの人とバスが来る少しの時間でおしゃべりをしている。バスを利用する人に話しかけて交流を楽しんでいるのだ。

利用する人は様々で、同年代の人や近所の知り合い、子供連れなど様々だろう。バス停が交流の場になっているのだ。今の時代、見ず知らずの人に声をかけられたら警戒心を持ってしまいう世の中でも、このご利用者がバス停で話しかけると会話が弾むそうだ。

ご利用者は明るく、自分が体験した楽しかったことを楽しそうに話をする人柄を考えれば、バス停でバスを待っている間に話しかけられても嫌な気持ちにはならないだろう。むしろ、バスを待っている時間が退屈にはならないのじゃないかとも思ってしまう。別に、地域の交流の場なんて設けなくても、自然と地域のどこかで交流の場ができていくのだろうなと感じるバス停なのだ。

(2019年6月)

